

令和6年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立山王小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・日常生活に関する事を題材とすることで、英語で伝えたいという児童の意欲を引き出すことができた。
- ・会話の手本を示すことでゴールを明確にし、児童が見通しをもって学習に取り組むことができた。
- ・ALTを活用して音声を十分に聞かせたことで、新出表現の理解が進んだ。

(2) 課題

- ・新出表現を会話で使うことはできたが、既習事項を活用して会話をつなぐのが難しかった。
- ・アルファベットを概ね書くことができたが、細かい間違いが見られる。
- ・長いストーリーを聞く時に、最後まであきらめずに意味を予測しながら聞き取ることが難しかった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

| | 令和6年度結果 | 令和5年度結果 | 令和4年度結果 |
|------|--|---------|---------|
| 第4学年 | | | |
| 第5学年 | | | |
| 第6学年 | ○全体、全ての観点において、目標値、前年度、区内、全国平均正答率を上回った。 ○区内平均正答率と比べ、全体が5pt、知識・技能が4.5pt、思考・判断・表現が5.6pt、主体的に学習に取り組む態度が7.5pt上回った。前年度はそれぞれ、1.1pt、0.6pt、1.9pt、2.1pt上回っていたため、今年度はどの観点においても数値の上昇があったと言える。 | | |

(2) 分析（観点別）

① 第5学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|----------|---------------|
|-------|----------|---------------|

| | | |
|--|---|--|
| ○ 「聞く」「読む」ことは、基本的な表現について概ね理解していた。 | ○ 単元末の発表では、相手意識をもち、工夫したり、内容を選んだりながら発表することが難しい児童が多かった。 | ○ 既習事項を活用しながら会話を続けようとすることが難しい児童が多くかった。 |
| ○ 「話す」ことは、準備をすれば会話をしたり、発表したりすることはできた。しかし、学習したこと（主に、教科や習慣）を即興で会話の中で使うことが難しい児童が多かった。 | | |
| ○ 「書く」ことは、まだ学習を始めたばかりであり、特に小文字を正しく書くことが難しい児童が多かった。 | | |

② 第6学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| ○ 「聞く」「読む」領域は、全ての問題で目標値・全国正答率を上回った。単語や、文章の聞き取りに十分慣れていた。ただ、数を聞き取る問題は、他の問題と比べて間違えている児童が多かった。 | ○ 「聞く」領域では、道案内に関する問題のみ、全国正答率を下回った。道案内の指示を正しく聞き、目的地まで辿り着く力に課題がある。他の問題では、全て全国正答率を上回っていた。 | ○ 「書く」領域では、6問中5問が全国正答率を上回った。単元の終わりに英作文して発表する活動を取り入れているため、英作文に慣れており、すんで取り組むことができた。 |
| ○ 「書く」領域は、小文字を書く問題が全国正答率を下回った。小文字で書くべき問題を、間違えて大文字で書いてしまった児童が多かった。大文字と小文字の区別に課題がある。 | ○ 「書く」領域では、考えながら書く問題9問中7問が全国正答率を上回っており、概ね正しく書くことができていた。 ○ 「読む」領域に関する問題の出題はなかった。 | ○ 「聞く」「読む」領域に関する問題の出題はなかった。 |

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第5学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|----------|---------------|
|-------|----------|---------------|

| | | |
|--|--|---|
| <p>○会話のやり取りをさせる時間をより多く設ける。会話のやり取りをさせる前には手本を示し、既習事項が活用できるかも考えさせる。</p> <p>○書く時間をより多く設ける。小文字の特徴を指導し、繰り返し書かせることで慣れさせる。</p> | <p>○単元末の発表を今後も繰り返し行うことで、表現力を高めていく。工夫の仕方や、内容を選ぶポイントを考えさせ、思考しながら発表ができるようにする。</p> | <p>○既習事項を使って会話する復習の時間を適宜設け、理解を定着させる。そうすることで、会話の中ですぐに活用し、会話を続けようとする態度を育てる。</p> |
|--|--|---|

(2) 第6学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| <p>○「13」と「30」のように、発音が似ている単語は、間違えやすいポイントに気を付けさせながら、繰り返し聞かせたり、発話させたりする。</p> <p>○書く時間をより多く設ける。小文字の特徴を指導し、繰り返し書かせることで慣れさせる。</p> | <p>○道案内等、小単元で学習する表現も、これまで以上に繰り返し授業で扱い、習熟を確認していく。また、児童間の会話量を増やし、表現に慣れるようにする。</p> <p>○自分が伝えたいことを、既習表現を使ってどのように伝えることができるのかを考えさせる。そうすることで、新出表現だけでなく、既習事項も活用しながら会話のやり取りや発表ができるようにする。</p> | <p>○英作文は、単元の終わりだけでなく、毎回の授業で取り入れ、少しづつ完成させるようにする。そうすることで、児童が単元末に向けて見通しをもてたり、内容を調整しながら英作文ができたりするようにする。</p> |